

漆塗也、古ハ赤黒等ヲ交ヘズ、素漆ヲ以テヌル、今世ハ辨柄ヲ和シテ溜塗トスル也、塗ゴシ、一名直輦。ト云、略物ニテ平日用之、今世此他ヲ不用歟、今世幕府大臣、位官ノ時ハ、京師ヨリ攝家及ビ殿上人、江府ニ下向、大禮アリ、其日ノ大臣モ、殿上人モ、トモニ籠ナル塗輿也、是ハ京師ヨリ携ヘズ、幕府ヨリ借用ト聞リ、又今世大名モ家格ヨリ、右ノ如キ大禮ノ日、及ビ毎年正月初登城ヲ見ルニ、塗輿ヲ用フ、總テ板ノ春慶ヌリ也、

〔伊勢貞興返答書〕こしの高下の事

一ぬりごしは、公方様、又門跡長老などめし候、其外官領大名衆、公方様より御免之上にてめし候事候、一段規模なる事候、金物の數は五ツ七九十一などは、平人はあるまじき事候、

〔三内口決〕二塗輿、四方輿之代也、當時ハ車之代、

諸家之輿ハ有廂僧并武士ハ無廂

路頭之禮有之、以車之禮爲准、雜色以角木、騎馬、諸大夫侍等、前駟次侍爲上首、下車歩行之時者、諸大夫雜色等、

可爲前行也、以此准據乘輿之時モ、可有其沙汰、武士ハ歩行之時、塗輿者、諸家諸山、於門前乘之也、

但東堂者、至玄關乘之云々、若然者、經寺僧之推舉之後、可遂其例、歟、總別者、於門前可乘之條、爲本儀、歟、凡輿之立所者、禁中ハ限立石、諸家ハ互ニ限門外、但攝家、凡家ハ渡御之時、

〔二水記〕永正十五年三月十九日、宮御方、密々令詣石山寺、給依仰供奉了、伏見殿宮御方、竹内殿、右宰

相中將、予藤原隆康已上輿、各御板輿也、竹内殿一丁塗輿也、

大永元年十二月廿四日、今日武家御元服也、仍渡御于三條御所、中辰刻渡御、塗輿、垂

〔成氏年中行事正月〕一同廿九日、雪下今宮へ御參詣アリテ、直ニ瀬戸ノ三島大明神へ御社參、御先

ニ御劔役被參、其次ニ御馬ヲ被牽、其後公方様御出、御輿赤漆、御單物也、

〔貞丈雜記七〕一きいろごし、黃色輿也、是も前に云塗ごしを、黄色の漆にてぬりたる也、婚入之記に

輿七一きいろごし、黄色輿也、是も前に云塗ごしを、黄色の漆にてぬりたる也、婚入之記に